

# 令和3年度第6回石岡市総合計画審議会会議録

## 1 会議の名称

令和3年度第6回石岡市総合計画審議会

## 2 開催日時

令和3年11月16日（月）9時30分から 11時00分まで

## 3 開催場所

石岡市消防本部3階

## 4 出席者

15人

## 5 会議録（要旨）

### （1）開会

#### 【事務局】

まだいらしていない委員もおられるが、時間となったので始めさせていただく。開会に先立ち、今回開催通知が遅れたことをお詫び申し上げます。今後の予定について、調整が付き次第すぐにご案内するので、何卒よろしくお願いしたい。なお、次回の審議会について、お手元の通知をご覧いただきたい。11月25日木曜日を予定している。ではただいまより、令和3年度第6回石岡市総合計画審議会を開会する。なお、本日の出席は現時点で11名であることから、過半数に達しており、本審議会条例第6条第2項に規定する定足数を満たしている。この会議は成立していることをご報告申し上げます。また会議については、石岡市総合計画審議会傍聴要綱に基づいて公開とさせていただいている。では次第に沿って進めさせていただく。初めに馬渡会長よりごあいさつをお願いする。

### （2）会長あいさつ

#### 【会長】

今日は途中で中座させていただくことになると思う。大学で授業があるので、途中から副会長が引き継ぐことになるため、お含み置きいただきたい。先

週県議会の方でヤングケアラー支援の条例が議員提出条例で出るということで伺ってきた。その際にヤングケアラーというのは、介護など様々な問題があるが、それこそ今の若者というのは、人ごとではなく、例えば親のケアもしなければいけない。あるいはおじいちゃん・おばあちゃん、兄弟や小さい子のケアもしなければいけないということで、若くして全くこれまでとは関係のないようなものが既に顕在化している。それを支援するための条例が行政主導ではなく、議会主導で出ており、お手伝いということでお話をしてきた。我々の学生は、社会調査士というものを目指すカリキュラムが作られているため、当然調査がある。アンケート調査を250名程度にして、その上で課題は一体何なのか。その課題が分かるからこそ原因があって、その原因があるからこそそれに対する支援策・対策が分かるわけだ。なので、初めから感覚でこういうことを提案するというのは絶対にやらない。これは口を酸っぱくして言っているのだから、そういうことはやらないようにしている。そのため、その調査をもとに県議会の方でも最終的には支援策ということで提案させていただいたところ、修正案として条例案に盛り込みますという非常にありがたいお話をいただいた。

物言う株主というのが昔あったが、まさしく物言う学生ということがあり、先月だとこれも県議会なのだが、青空対話議会にて、高校生・大学生・正副議長・正副常任委員長全員が集まったの茨城の魅力を探求し、発信する高校生コンテストというのがあるのだが、これを題材にして議論があった。最後に議長の方から、県議会に対して何か要望はないかということでお話をさせていただいたのだが、学生からは非常に厳しい注文があった。一つは、若者たちはぜひ夢を見てくださいと県議の先生方は言うけれども、無責任なことは言わないでくださいと。そもそもデフレ世代で、景気が悪い我々は夢の見方なんて知らないのだということなので、無責任なことはやめてくださいと。もう一つは、よくこういう人の話を聞いたとか、こういう困った人がいるという話を本会議の中でお話をして、それで執行部の答弁なんかは、個別具体的な案件には答えかねるということで噛み合わないという話をするが、それは当たり前だと。そもそも全体の傾向があって、その傾向をもとにその発言だとか、人々の声というのが平均値なのか、代表値なのか、外れ値なのかが分かった上で話さない限り、噛み合うわけがないのだ。だから県議会はスケールが小さいと。

ただ、県の議員というのは、そこは懐が深いなと思ったのは、全くその通りだということで、我々も非常に反省する点はある、議会改革にも盛り込むという話をしていた。今日のお話の中でも、チャレンジする市役所ということで、その中で課題分析に基づく政策立案の推進。よくEBPMというもので、根拠やデータに基づいて課題を導き出し、その課題に対して原因があるからこそ、政策ができるのだという段階を踏むことになる。ただ、明らかに足りないのは

分析する人である。データを集めるのはよいのだが、どうやって誰が分析するのかと。当大学は協定を結んでいるため、もちろんお手伝いはする。もちろん優秀な学生もいる。さらに今年の4月からジョージタウン大学で、博士号を取った者が4月から当大学に入る。彼は民主党とか共和党の世論調査も手掛けている男なので、非常に優秀である。そういったこともあるため、ぜひ、職員を派遣していただくとか、そこで1人でも多くの分析者を作らないと、魂が入らないというか、仏作れで終わってしまうため、そういった要望も冒頭でさせていただきます。

### 【事務局】

ではこれ以降の議事については会長にお願いする。

## (3) 議事

### 1) 基本計画について

#### ①「情報発信」施策ページについて

### 【会長】

では次第に沿って進める。まずは基本計画ということで、資料1、情報発信から議題となる。事務局より説明をお願いする。

### 【事務局】

(資料1について説明)

### 【会長】

ありがとうございます。では、本日の議題の一つ目。情報発信。石岡市を知り、まちの魅力を発信する、について、ご意見等をお願いする。

### 【委員】

まず文字が間違っており、8ページのシビックプライドになっているが、これはプライドである。あと13ページの関連計画の令和元年度の頑が違っている。

次に4ページのYouTubeのチャンネル登録者数なのだが、令和3年の時は483人。今度457人と減少しているわけだが、その理由は何か。

### 【会長】

文言はぜひ修正しなければいけない点で。登録者数がプロモーションの推進と言っている以上、当然登録者数は増えるはずなのにもかかわらず、減ってい

るのだということで事務局に説明をお願いしたい。

#### 【事務局】

こちらは本来であれば上昇目標ということで設定するものである。各課と調整をして、目標の再設定を行う。

#### 【委員】

それから、10ページのこの広報・広聴の充実ということで、ホームページへのアクセス数についてである。実際に令和2年度から令和9年度において、約1万8,000伸びると記載しているが、今後のホームページのリニューアルはどう考えているのか。

#### 【事務局】

ホームページのリニューアルについては検討中で、今後より見やすいホームページについて、構成を含めて検討していく。

#### 【委員】

そういう部分が重要になってくるので、やはり市民もそうだし、市外の人たちも必ずホームページは見てくると思う。石岡市の魅力という部分を見たいということで、必ずホームページは見るため、これは随時リニューアルという部分においては計画を持って対応していただきたいと思う。

それから11ページなのだが、情報発信手段の数ということで、今現在の手段が7つ出ているのだが、それを9にしているということは、あと二つ考える余地があるということで9になっているわけだが、現在考えられるとすれば、何と何がツールになるのか。

#### 【会長】

これはインスタとかすぐに考えられるのはそんなところかと思う。あとは何か。

#### 【事務局】

会長がおっしゃるようにInstagramとか、あとは皆さんが使っているような広く一般的に行われている例えばLINE等が現在考えられるが、今後は調整をして増やしていきたいと考えている。

### 【委員】

14ページのフィルムコミッションの充実ということで、ホームページにもかかわってくるわけだが、やはりフィルムコミッションの充実においても、石岡市の魅力を発信するには、動画とか映像の部分の載せて、それでフィルムコミッションを確保するのであれば、それをしっかり訴えていかなければいけないと思う。ただの写真だけでは分からない部分が多々あるので、動画の映像をしっかりと取り入れて発信してもらいたいと思う。

### 【会長】

多岐にわたるご指摘があった。補足させていただくと、今、当大学の学生もそうだが、メールはあまり見なくなった。むしろグループウェアが主流となっている。LINEなどの空間上のコミュニティをつくってやっているというのがある。当大学の教職員組織も、メールでの連絡はだんだん少なくなり、むしろグループウェアが多くなっている。LINEはこれからだと思う。広報の手段というのは、様々なものを他の市町村に先駆けて、全国的にも石岡市は進んでいるのだというのを検討しながら実施していただきたい。一方で慎重な部分もあるため、情報発信については、やはり軽々にもものは言えないところもある。ぜひご検討をよろしく願います。

### 【委員】

4ページの広報・広聴の充実について、私どもは月に2回来る広報紙で情報をつかんでいる。区長のところに来て、その後班長から配布されてくるものと、コンビニ等においてあるものがあるが、定期的に購読してもらえる人は大体どのぐらいいるのか、何部発行してどれぐらい残っているのか。広報紙のそういったことも成果指標に入れたらよいのではないか。私どもの区でも区の役員になったら区に入りたくないと抜ける人もいる。アパートの住人等、せっかく広報紙があるのだけれども、本当に有効に部数が伸びているのかどうかなどといったことも考えてもらったらよいのではないかと思う。

### 【会長】

広報紙についても参考資料として検討してほしいというご意見である。

### 【委員】

まず7ページ、石岡セレクトについての認証件数や、ブランド化の推進ということで、前回もお伝えしたのだが、一体どういうものがセレクト認証としてされているのかとか、そういう具体的なものというのが、分かるのであれば

スト化されてもよいのではないかと思った。スペースがあるので、具体的なものを入れるというのは可能なかどうか。それと農産物の6次化、ブランド化産業ということで、令和3年度だと、おそらく富有柿のことをブランド化ということで、実際に私も富有柿を生産しているので、今回のブランド化ということで協力させていただいているところだが、令和3年度だと富有柿があり、それ以前に梨などもあった。これはやはり令和3年度の柿からということで、梨から入れることはしないのだろう。おそらく梨は数年前からブランド化をされたのだが、実質うまく行かなかったということで、結局富有柿からということだと思う。目標値が8件になっているが、このブランド化ということは、非常に農家にとって労力を、本当にすごい労力が必要なもので。この富有柿1件でも本当に大変である。他にもブランド化をするということ。それが本当に1件から8件。これだけ増やすことができるのかという私は不安に思っている。目標なので、確かに数を多くしておくのは大事ではあるが、もう少し実質を考えた件数にしないと、あれもこれもブランド化というのは、農産物は非常に農家の労力が大変なところである。他の6次化するというので、簡単に進められるものもあるかもしれない。ただ、もうこの件数は見直しても、少なく見直してもよいのかなと思った。

#### 【会長】

まず、基準値については、参考として現状のどのような構成になっているのかというのはぜひご検討いただきたい。もう一つは8件というブランド化とあるが、生産者の意見としては非常に作り手の側に相当な労力が掛かっているのだということ認識した上で、数値を考えていってほしいという意見だった。

#### 【委員】

石岡ブランドの充実と重なる部分もあるかもしれないが、今週の19日かに市役所で石岡セレクト認証商品の販売を行う。それについてどのようにPRをしているのだろうか。あとは人数や来場者数はどのように示しているのか。あとは課題となっている市場でのPRというのは、具体的にどんなことを考えているのか。その先を教えてください。

#### 【会長】

現状のPR主眼というのを把握した上で、足りないものは何なのか。さらに伸ばせるものは何なのかという考え方をしてほしいということもあるかと思う。今週行われる予定のPRイベントについては、担当職員が今日は出席していないため、この場で回答はできないと思う。現状分析が非常に大切になるの

だということの改めてのご指摘なので、貴重なご意見に感謝する。

**【委員】**

14ページのフィルムコミッションの充実ということで、フィルムコミッション撮影本数の基準値については、令和2年度でよいのか。前年だともっと多かったはずであり違和感を覚えている。基準値により全然違ってくるというのはずっと懸案事項である。石岡は今までも映画業界等から注目されているのだよというのはあらかじめ分かっているところなので、基準年度は考えていただいた方がよいと思った。

**【会長】**

これまでの議論の中でも同様の指摘があったところなので、今後おそらく同様の質問・意見が出ると思う。引き続きこれについては念押しをさせていただく。ちょうど今他の自治体などでも、総合計画の策定委員会があつて実際に出てきたのだが、基準値を1年とするのか、他の年も入れた上で、経年で見た上で目標なのだということが望ましいという意見があり、当然市民もそう思うわけだ。この辺りについてはご検討をいただければと思う。

**【副会長】**

4ページの石岡市ふるさと大使によるPRということで、上から3行目。多方面で働く方々を石岡市のふるさと大使に委嘱し、それぞれの分野で本市の魅力や情報をPRしていただきますということだが、これは既に何名か大使に決まっていてやっていることなのか。それとも次年度から新たにスタートするのか。

**【会長】**

これも次回以降に回答ということでよろしいか。

**【副会長】**

はい。

**【会長】**

他にご意見はあるか。

(委員から特になし)

## 【会長】

では情報発信については、様々な皆様方の意見を取りまとめた上で、また次回の会議でその結果については、次回以降でご確認をいただけるかと思う。

続いて、「子育て・教育・学びについて」に移る。資料2の説明を事務局からお願いする。

## ②「子育て・教育・学び」施策ページについて

### 【事務局】

(資料2について説明)

### 【会長】

子育て・教育・学びの説明があった。ご意見をお願いする。

### 【委員】

22ページ、基本施策6で、真ん中あたりに、現状・これまでの取組の下のところなのだが、赤丸の三つ目で、青少年を育てる市民の会には、各小学校単位の支部があり、地域に根ざした活動を行っているが、子ども会入会者は年々減少していますということで、私も子ども会の執行部をさせていただいているのだが、青少年を育てる市民の会と子ども会の入会とは全く別物だと思うので、この辺りの文言は変えないといけないと思う。実際に事務局でも子ども会育成連合会の事務局にいらっしゃった方もいるため、ご検討をいただければと思う。青少年を育てる市民の会は、子ども会の入会の件とは全く異なる。

### 【会長】

子ども会入会にあたっての事実確認をさせていただきたい。そもそも入会者は少子化なのだから減るのは当たり前である。いわゆる小学生の全体に占める割合は年々減っているというところは大変だなと思う。その点も冷静に考えていただきたいところである。

### 【委員】

3ページの、結婚しやすい環境づくりというところで、コミュニティ推進課の方で年に4回の婚活パーティ等いろいろ開催していたのだが、とても有意義な機会をコロナによってできなくなってしまった。私も今結婚相談員をやらせていただいているのだが、やはりきっかけを作ることは非常に大事である。私たちが日々いろいろなところに情報を得て、2人の出会いをさせているのだが、ここのところやはりそういった機会がないために、なかなかうまく行かな



い。ぜひこれからコロナが解消されて、婚活パーティも再開されると思うのだが、私たち相談員だけの情報では不足する部分がある。地域の方からの情報を一つでも教えていただきたい。

あとは31ページについて、令和4年4月、八郷総合支所の2階に「郷の本棚」という素晴らしい図書館ができる。今までは中央公民館の中に小さな図書館があったただけだが、今度は総合支所の2階に大々的に素晴らしい図書館ができるので、八郷の方は人口が少ないが、できるだけ多くの方に利用をしていただき、郷の本棚というところが地域の皆さんの交流の場になって、もっともっと本が好きになってもらって、子どもから高齢者までたくさんの利用をしていただけたらというPRも大事だと思う。

### 【会長】

センシティブな問題ではあるが、かつては世話好きな方がいらしてということがあったのだが、趣旨としてはぜひ相談員も含めて、関係性を密にすることで、結婚しやすい環境づくりができるというのは現場の声である。八郷図書館については、これもやはりPRにあたっては、関係性をもつユーザーが地域の市民ということもあるため、ユーザー目線に立ったということもあるし、やっぱり密な関係性というのが、先ほどの結婚しやすい関係づくりと同様の指摘だと思うので、ぜひご検討をよろしくお願いしたい。

### 【委員】

26ページの学校教育の環境の整備・充実というところで、成果指標は小中学校の学校数を24から令和6年度に17校ということで、7校少なくすると書いてある。瓦会小は恋瀬小と統合で一緒になって、その後八郷小学校をつくるようなそんなことが今持ち上がっていると聞いている。PTA等の話で、今実際にどうしてよいか話し合っている時期だが、瓦会小も統合に従っているような、成果目標の記載となっており、見直しをしていただきたい。現状このような段階ではないと思う。

### 【会長】

小中学校の統廃合は、また別の審議会でも議論を行っていて、これと連動しているところもあると思う。これをやり始めると大変で、他の自治体でも同様に小中学校の統廃合をやっているのだが、ユーザー側は、1クラスで複式学級では社会性が身に付かないから早く統廃合してくれと言っている。一方でOB・OGの方は、なくなるのは私たちのシンボルとして何中、何小があるということで難しい問題である。ユーザーである小中学生のことを考えるのか、そ

れとも地域の一つのこれまでからあったシンボルとして考えるのかということであるため、ここでは意見として承らせていただく。

### 【事務局】

こちらの目標数値については、令和6年度ということ、最終的に学校統合再編計画を最終目標の中間点というか、そういった段階だと思う。そのため、小学校で12校と中学校で5校ということで、第2段階の手前、第1段階のところで数値をカウントしているような状況である。最終的にはもう少し減るのだが、先ほどの統廃合については、まだこの時点では協議中である。再度また調整する。

### 【委員】

19ページの、国語学習の充実や読書意欲向上につながる働きかけ、学校図書館の蔵書のさらなる充実ということで書いてあるのだが、学校教員ではなく、学校図書館司書という職がやはり読書意欲向上につながる働きかけの中心になると思う。蔵書だけがあれば子どもたちが本に親しめるかということ、そういうことはないため、そういった人的な問題は大きいと思う。これは法令では決まっているはずである。ただ、当分の間それを置かないことができる状態で、何十年も続いている。そのため、人的な問題も想定した表現にされた方がよいのではないかと。いろいろ財政上の問題とかそういったこともあって、すぐには難しいと思うが、こういった本があればよいのかという問題ではないということは、どこかに反映していただければと思う。

それから蔵書についても、先ほど会長からお話があった調査の基本として、小学校段階からいろいろなことで調べ学習というのがある。いろいろな本からデータを調べて、論理を立てていくという訓練を小学校から始めるのだが、そういったことも想定した蔵書が必要かと思う。

それから、それに関係して、29ページの生涯学習のところ、図書館について、リピーターの拡大に向けた新たな図書館サービス、図書館事業の検討が必要とのことである。この中には、八郷の図書館が人々の交流の拠点となるということも重要な役割ではあるのだが、やはり図書館の業務の一つとして、単なる貸本屋ではないということだ。それは何かというと、いろいろなことを市民が知りたいというときに、ではどこに行って調べるのかということの一つの拠点になる場所である。そのために図書館の重要なサービスとして、レファレンスサービスというのがある。つまり、市民からいろいろなことを知りたいというときに相談を受けて、それに合った資料を紹介するという、知の拠点ともいえるべき役割である。そのため、市で例えば参考指標として、図書館の蔵書数

とか、貸し出し図書数などを挙げているが、レファレンスサービスの統計は取っているのだろうか。つまり、どれぐらい市民からそういう相談があって、対応をしたのかとか。あるいはどのぐらいそれに時間を費やしているのかとか。そういったこともこれからの生涯学習というか、重要な考え方になっていくと思う。

## 【会長】

2点、非常に重要な指摘だと思う。まず1点目が19ページにかけてということで、司書の質というか、あるいは蔵書の質も教えるものに対応して、今までのものをただ置いておくということではなく、見直しも考えていく必要があるだろうというご意見であった。その際にどれを選定するか。当然その専門性のある司書の方だとかがしっかりしていないといけない。人材育成にもつながることであり、そこは非常に重要な点かと思う。

日立市のシビックセンターの上の施設で、子どもたちに科学の楽しさを教えるということで、相当にぎわっているのを見た。併せてドローンも当日体験会が行われていて、日立市はこんなにたくさん子どもたちが集まれる場所があるのだということがあって、やはり導く人というのは非常に重要なのだなということである。あとはその中身である。時代時代、今後必要となるスキルに沿って、蔵書だとか、それが文字の紙なのかは別としても考えていく必要があると思う。

また、レファレンスについては非常に重要である。それこそレファレンスサービスが図書館などにおいて、これからの学びを左右していくことがある。蔵書の数も質が伴わなければいけないところもあり、レファレンスサービスがこれまでにどれぐらいあって、少なければ今後広げていくことなどが、非常に重要である。人的な育成の非常に大きくつながるところもある。レファレンスサービスの件数について、参考指標としてもよいのではないか。要するにユーザー側に沿って、またどういったニーズがあるのか。ユーザーとニーズということ考えた場合に、そういったものもあってしかるべきだなということもあるので、非常に重要な指摘だと思う。ぜひご検討をいただければと思う。

## 【委員】

18ページの創意ある学校教育の推進という中で、現状・これまでの取組、保護者支援として、ランドセル支給、給食費第3子無償化などがあるが、確か議会でも取り上げられたと思う。第3子以降になるとは思うが、県立特別支援学校に通っている子は該当していない。それは市民なのだが、該当しなというのは、今後どう変わっていくのかとか、全く変わらないのかということはどう

なのか。基本政策4，個別の事情を踏まえた子ども・家庭支援の充実というところともつながってくるが，そのあたり石岡市としては他市町村との違いという中では，どんな考えでいるのか。

### 【会長】

これも急には答えられない案件かもしれない。宿題にしてもよろしいか。また担当課と回答をすり合わせていただきたい。

### 【事務局】

文化政策を推進する際に，小中学校のみならず，他にも該当する市民の方がいるというのは，視点として施策を打つ際には重要となるため，そういった部分を踏まえながら進めていきたいと思う。

### 【委員】

26ページに話題が戻るが，学校教育環境の整備・充実のところで，成果の指標について，先ほど数の問題があったが，根本的に成果指標が小中学校の学校数でよいのかという気がする。本来は，学校を使っている子どもたちであるとか，働く先生であるとか，あるいはPTAといった目線での満足度が指標であって，学校の数を指標にするのかはどうかかなと思う。

### 【会長】

その通りである。

### 【委員】

いろいろなお母さん・お父さん方の話をうかがうと，石岡の学校の環境は決して自慢できるものではない。まだまだ改善点があると思う。そういった意味では，この指標をもう少し検討する必要があると思う。

### 【会長】

この指標は，例えば学力だったら点数ということで，すぐに分かりやすく誰もが納得できる。

### 【事務局】

こちらの学校教育関係の整備に関して，念頭に置いているのは，あるべき将来の姿にあるように，より良い教育環境や時代の変化に対応した魅力ある教育環境の中で学ぶことができるというのを定め，そのためにはどういう成果指標

かというところある。確かにご指摘の通り、単純に学校数と書いてしまうと、不適切かと感じるところである。こちらのGIGAスクール構想をはじめとした、より良い教育環境を提供するには、財政的な考えもありながら、学校を統合してより良い環境を整備して、そこで子どもたちに学んでいただくという方向性もあり、選んだところだが、成果指標については検討してまいりたい。

### 【会長】

この先の先でノーベル賞1人などといった指標が出るとよい。数を減らしてノーベル賞ではなく、別の指標があるというご指摘かと思う。明日の日本を引っ張っていく、それも石岡に住んでいながら明日の日本を引っ張っていくような子どもたちが増えればなと思う。

### 【委員】

24ページの参考指標について、例えば石岡市子ども会育成連合会事業の事業数の基準値とか、石岡YSC、高校生会の活動回数ということだが、先ほども申したように、子ども会関係の方にも携わっており、高校生会のボランティア活動をした実際の回数は、確かに令和2年度はコロナの影響で、1回ぐらいだったと思うが、実際のところはやはり毎年数回はそれぞれの子ども会から要請があったことに対して活動をしているので、実績の数はもっとあるはず。その辺りを少し検討してもらいたいと思う。高校生たちはもっとボランティア活動をしているよというので、今までもしているし、今後も可能性があればもっと増やしたいと、そういう感じで考えていただければなと思っている。

子ども会育成連合会事業数について、現在、育成連合会事業数の活動自体が非常に微妙なところがあり、これを載せるべきなのかどうか、私はすごく疑問に思っているところである。

### 【会長】

外から見ても石岡の高校生を1回しかやっていないと見られるのも高校生からしても思うところがあると思うので、ぜひご検討をいただきたい。あとは子ども会のことで重ねてのご意見であった。

### 【委員】

まず2ページ、3ページの合計特殊出生率で、令和3年は1.44で、令和12年は1.8ということで、実際に人口が減少する中での1.8という状況が、これが実際の数値として見込めるのかどうか。確かに人口を増やして、結婚して出産するのは一番大事なことではある。実際にずっと見ていると、人口はどんどん

減っていく状況であると思う。その中で、1.8でいいのかどうかという部分は疑問に思った。

あとは結婚しやすい環境づくりについて、実際に石岡市においても、45歳までの方のお見合いパーティをやっていると思う。45歳という部分での一つのくくりではなくて、垣根を取っ払った形で45歳以上の方でも結婚したいという方はいらっしゃると思う。出産は別にしても、これからの老後を楽しんでいきたいといった部分があるので、その点も視野に入れながら、結婚しやすい環境づくりという部分を目指してもらった方がよいのかなと思った。

次に、4ページで、先ほどの出会いの場の提供ということで、この目標数が、基本的に令和2年度が1組で、令和9年度が3組。これは逆に3組というのは少ないと思った。後で答弁いただきたいと思う。

それから、12ページの家庭教育・学習参加人数ということで、令和2年は0だったが、令和9年は6,000人となっている。この根拠をお聞きしたい。

それから15ページ。児童虐待ということで、私も今オレンジリボンを付けている。11月は児童虐待防止月間で、やっぱり石岡市においても児童虐待があるということで伺っている。実際にDVの問題にしても、なくさなくてはいけない。これも非常にナイーブなところがいろいろあり、我々とすれば、子どもさんを守ることが第一優先だと思っている。この政策はきちんと打っていくべきだなと思っている。課題の部分に書いてあるが、もっと強調して、子どもたちを守る何かそういう窓口だけではなく、石岡市は他と違う。子どもたちをこれだけ守るのだという、何かあった方がよいのかなと思った。

それから18ページ、基本施策の5の部分で、創意ある学校教育の推進について、「創意工夫」にした方がよいのではないかと思う。学校教育の推進をすると、いろいろな意味での窓口が広がるのかなと思った。

あとは最後に、26ページの学校の件。学校の目標の部分が令和6年となっている。実際に10年の総合計画の中での6年ということは、あと3年である。この3年後の目標数値でよいのか。実際にある程度統廃合の審議会が答申まで出されており、各地域住民との説明会も進んでやっていると思うが、その中で令和6年度というのがどうかと思った。

## 【会長】

整理すると、まず合計特殊出生率1.8について、無理繰りなのではないかという、これは誰もが思うはずだ。さらに、結婚成立数は1組が3組という、結婚の数値の疑問点。そして、12ページの家庭教育学級の参加人数、0から6,000ということ。また児童虐待については、非常に重要なところでもあるので、何らかの形で盛り込めないのかということ。また創意ある学校教育の推進について

18ページの、工夫ということ。裏返せばお金がないから何とか創意工夫で何とかしようというのもある。そのため、工夫と知恵でいろいろ乗り切るといったところもある。発展的な創意としてあるもので、どう工夫するかというご指摘かと思う。最後が学校教育ということで、3年後になっているのだけれども、この3年後でいいのかどうという疑問点。違和感も含めてのご意見だった。この場ですべて答えられないように見えるが、どうか。

### 【事務局】

お答えできる範囲だと思う。まず合計特殊出生率、学校数について、既存の計画があり、それを踏まえた目標数値の設定になっている。また家庭教育関係については、これはやはり令和2年の数値を採用しているのが理由で、例年を鑑みれば決して実現不可能な目標ではないと考えている。人数については、より適切どころの数字を、例えば令和元年、令和2年度、令和3年度の整合性が取れるような数値を採用していきたいと考えている。その他の点については、担当課と調整していく。

### 【委員】

20ページに文字の訂正がある。英語に勉強が好きな、は、英語の勉強が好きな、である。

それで皆さんにぜひ知っておいていただきたいなということがある。英語が好きだと思う児童の割合。基準値、令和3年度、74.1%だが、小学校の時は確かに好きだった。でも、中学に上がった途端に嫌いになるということが非常に多い。私も英語教育に携わっているが、実際に現場の方では、小学校と中学校の連携が英語教育に関して取れていないようである。ましてや今小学校の5年生から評点が付くようになってしまったため、その評点が付くことで中学校の1年生、最初の時の学習が、授業が小学校に下りてきているという前提でいるようだ。ところが小学校では、英語の学習の仕方が全然指導はされていないようである。

### 【会長】

指導されないわけがないとは思うが。

### 【委員】

覚え方というか、アルファベットもまともに書けない子たちが今中学生で非常に多くなっている。

**【会長】**

データがないと何とも言えないような気がする。

**【会長】**

現場にいる感覚的には、英語の学力が落ちてきている部分があり、何らかの原因があるはずで、その究明をぜひやってほしいという、市への要望としての意見でよろしいか。

**【委員】**

そのようなことになる。

**【会長】**

ちなみに私はなぜ英語だけなのかと思う。5教科は全て大切である。全て連動している。なので、これが得意でこれが不得意ではなく、例えばセンター入試とか、何でもそうだが、論述があつて、主人公はなぜこんな心境だったのかだとか、登場人物の発言はなぜかというのはあるが、これはいわゆる状況だとか、不安とか不満とかの心理的なものを子どもたちが把握できるということである。英語の語学というのは、それが5W1Hと言われているほどで、合理的にいつどこで誰がと、そんな形で明確になる。数学はなぜ重要かという、いわゆる不満とか不安というのを数で量るってということなのだ。どれぐらいの人がいて、どれぐらいの不安の量なのかと。それで、理科とか化学は何ためにやるかという、因果関係である。なぜそれが生じたのか。さらに、社会は何かという、その背景は一体何なのかと。よく言われるが、政治・経済とかいろいろあるが、ペストというのだが、Pがポリティクスで、政治的な背景。Eがエコノミー、Sがソーシャル、Tがテクノロジー。例えば東京のホテルがなぜ高いのかというときに、これはここが英語・理科・社会・数学すべてないと分析できない。このように、連動するため、英語だけでできればよいのかという、とそういうことではないと思う。

**【委員】**

文字の修正で27ページ、ICTの活用の推進のところ、**「確かな学力の向け」**となっているが、**「向上に向け」**が正しい。確かな学力の**「向上」**が抜けているのかなと思う。

いくつかあるのだが、まず教育環境のハード面の設備という、どこに入るのかなと思った。統計がどうなのか分からないが、学校が休みの際に子どもたちが道路で遊んでいるのを結構目にする。石岡は公園とかが少ないような感じ



がする。そうした環境の整備をどこかに盛り込んでいただくことができないかなと感じている。

それから、若い人たちが住まいを求めるときに、子育ての環境とか、充実とか、どういう支援があるかというそういうことを考えると思う。そうしたときに先ほどランドセルとか、あとはこういう指標でおむつクーポンを今も配布してくださっており、そういった素晴らしい取組があるが、近隣の市町村と比べて、石岡がどれだけの支援があるかということを考えて、意外と若い人はそれで選ぶのかなと思う。そうした支援をせっかくあるならどんどん手当てしていただくということと、他の市町村でどういう支援があるのかという情報を集めていただき、いろいろ策を講じていただくとよいのかなと思う。

あと、先ほど出会いサポートの話があったが、県の出会いサポートに登録すると2か月待ちだと聞いたことがある。実際に出会えるまで、待ちの状態が続くとのことである。多分この出会いサポートも、そうだと思う。目標の4というのではなく、もっともっとたくさんでよいと感じる。

あと、学校トイレの洋式化というのは、県立高校の方は一斉に整備がされているので、子どもたちにとってとても大きな毎日のことなので学校校舎の改修を全面的にというのは難しくても、トイレはできるだけ早く進めていただくとよいかなと思う。

## 【会長】

文言のご指摘と、公園のハードの整備ということで、これは子育て世代にとっても非常に大きなところだと思う。またトイレの洋式化、これは恥ずかしながら当大学でもようやくやっているところである。最後の茨城出会いサポート、実は周知されていなかったりする。また登録者数も男性より女性の方が多いようである。意外に知られていない上、登録が煩雑な部分がある。非常に大切な局面なので、ともかくPR周知が重要である。一方で相当細かくマッチングされ、よくできていると思うので、活用すればもう少し増えるのではないかなという実感を持っている。

他にご意見はあるか。

(委員から特になし)

## 【会長】

では、ここまでとさせていただきます。最後にまだ全体を通じて、あるいは何か言い忘れた方は、以降、副会長とお願いしたいと思う。ではここからの進行は、副会長にお願いする。

### ③「チャレンジする市役所」施策ページについて

#### 【副会長】

資料3のチャレンジする市役所の案を事務局からご説明をお願いします。

#### 【事務局】

(資料3について説明)

#### 【副会長】

チャレンジする市役所案について、ご意見がある方はいらっしゃるか。

#### 【委員】

22, 23ページの、開かれた市政の実現の中で、文書管理の問題がある。23ページで課題のところ、公文書等の管理に関する法律の施行により、行政文書の適正な管理や、歴史公文書の適切な保存など、同法の趣旨を踏まえた対応が求められていますということだが、そうではなく、何らかの具体的な方向性が必要だと思う。

というのは、やはり公文書というのは、日本の場合は非常に立ち後れているのだが、欧米とかアジアだと中国とか東南アジアにおいても、公文書館というのがある。先ほど図書館の話をしたが、いろいろな調査をする際に、基本となる機関が必要である。先ほど会長が言っていたように、いろいろな調査とかデータに基づいた政策提案とかやっていかなければいけないが、そういった公文書というのは過去の政策についての起承転結が決まって結果が出ている。そのため、そういったものをどう分析して、生かしていくかということで、非常に重要なところである。日本の事例は立ち後れており、ソフトの問題、公文書管理をするアーキビストという資格があるのだが、これは日本では公的にはまだ認められていないところである。よく言われるのは、アメリカの国立公文書館は2,000人の職員が公文書管理にあたっているのに、日本の場合は100人いるかないか、そういうマンパワーも不足しているところだが。昔よりはましになった。

これを県内で見ると、歴史館も、文書館として当初設立を構想された。なぜ歴史博物館と言わないのかというと、これは岩上元知事のこだわりで、歴史館というのは本来文書館として設立が構想されたものである。博物館は後でやむなくくつついた。なので、展示ではなく、行政文書、及び歴史文書の収集と管理が、本来岩上さんが構想したものだった。岩上さんは参議院議員となり、国の公文書管理の法律の立案に非常に尽力された。そういう経緯があるが、やは

り欧米のそういった実情を見て、行政をこれからやっていくには、公文書の管理・保存が重要である。

そのため、県内では歴史館がようやく県庁関係の文書を引き継ぐ形にはなっているのだが、市町村レベルだと常陸大宮市しか文書館はない。現在つくば市の方で文書管理をやっている。つくば市のホームページを見るとすぐ分かるが、歴史公文書評価選別基準とか、そういった細かい基準もホームページで公開し、どういう文書は残していくのかということを広く提示しながら、今後やっていこうと。最終的には保存場所である公文書館の設立ということを目指していると思う。そういった事例があるので、石岡市もぜひそういった工程表というか、具体的な方向性を、本来はこちらのチャレンジする市役所というよりは、総合計画の中に盛り込んでいただきたいところだが、重要だと思う。

ちなみに今回配付された資料の中で、後世に残すべきものとして重要なものは何かというと、前回の議事録である。こういった過程でこういった議論の中でこの計画ができたのかということの後世に残して、また10年後にこういった計画を立てる時にそれを評価の一つの材料にしていくと。これが非常に重要なことである。歴史というのはそういうことで、結果が出ているものをどうやって評価していくのか。それを現在・将来へ生かしていくのかということなのだ。そのため、そういった一つの中心として、公文書館があるのは望ましいのだが、いろいろな諸般の事情があると思うが。そういった方向性だけでもせめてここに盛り込んでいただければと思う。

#### **【副会長】**

行政文書の適正な管理がとても大切なので、具体的な方向性を何らかの形で計画書の中に盛り込んでいただきたいというご要望だった。事務局にはご検討をお願いしたい。

#### **【委員】**

この計画審議会で議論し、計画を立てるのだが、その3年後、10年後ではなく、市民、子どもも含めて、前回はこのようにやってこうだったということを知りたい。今回は、この計画に対してPDCAをどのように回していくかについて、事務局から今回でなくとも、いずれ出してもらえればありがたいと思う。計画だけ立てて、それで終わりということではなく、それに市民も携わっていく。そんなことができるような計画でありたいと考えている。

#### **【副会長】**

先ほど永井委員のご意見にもあったように、決まったことの経過に対し、議

事録が大事だというお話があったが、塚田委員からも、今に至る前回の結果がどのような経過で現在に至るのか。そして次の将来に向けて今回のこの会議がどのように活かされていくのか。その足跡のようなものをきちんと分かるようにしたいということだと思う。事務局のほうでご検討いただく形でよろしいだろうか。

### 【事務局】

今、現行計画、かがやきビジョンがあり、それに対して評価を行っている。そういった内容を基本構想に盛り込みたいと考えている。次回の会議にはお示しできると思う。

### 【委員】

質問の趣旨が違うかもしれないが、行政はどうしても縦割りである。例えば学校をつくる。あるいは工場を建てる。いろいろな民間、それから公のいろいろなプロジェクトがあるときに、例えば農政課とか建築指導課とか、いろいろな課があるが、そこを横断する課、例えば一つのプロジェクトに対し、我々がそれぞれの窓口と当然話はするが、横につないでいただけるような課があるとよい。あるいは家に例えると、横並びではなく、縦に並んでいると、一つの課題に対していっぺんに解決ができる。どうしても行政はバラバラなので、効率が悪い。そのため、一つの命題と課題に対し、横につなげていただけるような組織体をつくっていただくことが望ましい。効率が悪いと、どうしても結果が出るまでに時間を要してしまう。なるべくそういった縦割り行政の無駄を省くような組織体なり、考え方を行政の中に持っていていただければありがたいと思う。

### 【副会長】

事務局からご回答いただけるか。

### 【事務局】

市民からすれば、ワンストップ窓口といった事例もあるが、事務処理を明確化するあまり、縦割りになってしまいうこともあろうかと思う。先進事例を参考に、市民の方の利便性向上に向けて、取り組んでまいりたいと考えている。それがひいては今回策定する総合計画の中で、ある程度そういった考え方に基いて盛り込まれるとよいと思っている。

## 【委員】

吉田委員のご意見に付随して、やはり市役所の場合、2～3年ぐらいで担当が替わるのが通例で、こういったことを改善していかないと、数年かけて取り組むもので、人がどんどん替わると、自分が担当でなかったということを盾にされてしまう。きちんと分かる人を継続して置いていけるような状態が必要だと思う。そういったことを職員の方では提案することはできないかもしれないが、周りの人、私たちのような者から提案したり、職員の方でも何とか上にそういったことを提案ができる風通しのよい状態を市役所全体でつくることで、本当にチャレンジする市役所になっていくのかなと思うので、その辺りをよろしくお願いしたい。

## 【副会長】

風通しのよい市役所をということ、どうしても市役所というのは、何年かで配置異動、あるいは職場が替わるということがあがると思う。そこで長く担当しプロになることが必要で、チャレンジの中にも専門家を育てるということもあつたかと思う。市役所において、職員がプロだと言えるような、特化したようなそういう知識・技術を持った、能力を持った人がいることもとても大事なことだと思う。職場の中では配置転換があるということも現実としてあるが、若い職員たちが市役所の中、風通しがよく、働きがいのある、働きやすい現場の改革を目指した、若い人たちの意見が通りやすい、提案しやすい市役所をつくることも盛り込まれてきたかと思う。意見の一つとして入れておいていただければと思う。

## 【委員】

先ほどの子育ての中に、男性の育児参加という、男性育児休暇の取得率を目標にするというものがあった。現在、県庁では、庁舎のすぐ隣に保育所ができたということもあると思うが、だいぶお父さんがお子さんを抱いて送り届けて出勤という姿が見られる。石岡市は男女共同参画に対しては、以前から熱心でいろいろ講座を持っていたり、出前講座をしたり、学校なんかにも来ていただいたりしている。職員の男性の育児休暇の取得率をぜひ100%でもよいのではないかと思うほどである。期間は事情に合わせる形でよいと思うが、休暇を取得することについて、もっと高い目標を掲げることができるのかなと思うので、ぜひ率先して進めていただいて、いろいろな事業所のモデルになっていただきたいと思う。

### 【副会長】

男性・女性共に働く時代。これからますます若い人はそういう状況になってくると思う。男性の育児休暇取得の割合も、25%にとどまらず、もう少し高い数字になるように、また、これが世の中のモデルになるような、市役所の職員たちがこれだけ取っているのだから、民間でも取らなくてはという状況になるように、お手本となる数字を出してほしいということだと思ふ。

チャレンジする市役所案というのを今回読ませていただき、市役所の方々が一生懸命にやって、石岡の市役所の行政は近隣の行政から見るとだいぶ後れを取っているという噂を聞くのだが、これだけ中にいる職員の方たちは一生懸命にやってくれているのに、どうしてなのかなと私も疑問に常々思っている。行政というのは議会と市役所の職員の二人三脚の部分が大いだと思う。議会の方でも職員たちが働きやすいような形でまた環境づくりが必要だと考える。チャレンジする市役所、実現するのは大変かと思うが、頑張っけて石岡発展のために日々活躍していただきたいと思うので、職員の皆様、よろしくお願ひしたい。

本日は資料1, 2, 3と読み進めて協議してきた。全体を通じて何かご意見はないか。

### 【委員】

やはりこのように市役所と市民の方が連動してやっていくにしても、現状として、投票率が石岡では低くなっている。石岡が、日本一投票率が高くなるような、そんなチャレンジをするという趣旨をここに挙げてもらえればという思ひである。

### 【委員】

仕事も大変だと思うのだが、精神的にまいってしまう方が多い気がする。だからやはり職員が仕事にチャレンジしていくような、元気が出るような適材適所の部分を大事にしていてもらいたいと思う。まいってしまっているのにそこにずっといるということがよいことなのかどうなのか。職員が元気に働けるという環境をつくってあげなければ、せっかくの持っているものを発揮できないうで、ずっと精神的に崩れてしまう方もいらっしゃる。そういったことでよろしくお願ひしたい。

### 【副会長】

他にご意見あるか。

(委員から特になし)

#### ④その他

##### 【事務局】

(資料4・5について説明)

##### 【副会長】

ありがとうございました。今の文言に対して質問はあるか。

##### 【委員】

7番の産業・経済のところ、17ページに、石岡ブランドの発信、富有柿の皇室献上についてというこの記事が入っているが、内容の検討をお願いしたい。実は年数が間違っていたりとかしているの、もう少ししっかりお調べいただければと思う。献上自体は1960年代の半ばから始まっていることである。それと真家地区を中心となっているが、どちらかという園部の柿ということで、園部地区という言葉が入らないと、皇室献上には当てはまらないのではないかなと思っている。この献上に関しては自身もやったりしているため、その辺いろいろ調べさせてもらったりして、年数が違っていたり、もう少し確実なところを入れてほしいと思う。柿栽培の歴史は比較的新しく、昭和初期ということで、大体昭和15年ぐらいから始まっているが、それが新しいことなのかどうか、もう80年ぐらいは経っているということで、新しいと入れてよいのか分からない。文言をご検討いただければと思う。

##### 【副会長】

この富有柿の皇室献上についての文言は、事務局でもう一度精査をよろしく願います。他にご意見はあるか。

(委員から特になし)

##### 【副会長】

ないようなので、これで協議を終わり、司会を事務局にお返す。

#### (4) 閉会

##### 【事務局】

以上で第6回総合計画審議会を閉会する。次回は11月25日木曜日、午後2時からを予定しているのでどうぞよろしく願います。本日はどうもありがとうございました。